



長野県難聴児支援センター

ニュースレター

平成29年
第7号



長野県保健・疾病対策課

信州大学医学部附属病院耳鼻咽喉科

♪あかりをつけましょ ぼんぼりに〜♪ 少しずつ陽の光があたたかくなり、もうすぐ春ですね。子どもたちも「ひな祭り」の歌を口ずさみながら、お雛様を折り紙で作っていました。すると突然、「先生！『ぼんぼり』ってなあに？」と尋ねる子ども。するどいですね。うん。なんだろう？すると、他の子も『あかり』って電気のことでしょ！電気をつけるってこと」と説明。う〜む…。「ぼんぼり」は、イラストや雛飾りを見ながら確認できますが、この歌の情景は「スイッチON！」ではない気がする。ほのかに揺れるともし火に、あでやかなひな人形が映えて心がウキウキする感じ。子どもたちの純粋な「質問」に、あらためて童謡、唱歌のあじわいを感じた春のはじまりです。



「めんどくさい」のススメ

先日相談いただいた中で、とても心に残る一言がありました。「先生、今の子は掃除機すら知らないかも。時代はルンバです」『小学生になると、ほうきを掃く人と、ちりとりで取る人がいて、その呼吸がコミュニケーションですね』という話題からの一言でした。近い将来、もしかしたら「する・やる」で全ての表現ができてしまう世の中になるかもしれません。



（「レンジでチンする」「ロボットが掃除をやる」「メールする」「会計でピッとやる」…）便利になる世の中だからこそ、あえて「面倒くさいこと」を体験しておきたいなあと思いました。面倒くさいことをやることで、そこにある「ことば」を発見する子どもたちです。

掃除：水を「くむ」、雑巾を「しぼる」、はたきを「かける」、ほうきで「はく」…

調理：「煮る」「焼く」「ゆでる」「蒸す」「炒める」「揚げる」、「切る」「むく」「割く」…

お手伝い：お箸を「揃える」、みんなに「配る」、服を「たたむ」、袋を「しぼる」…

子どもにやらせると時間も手間もかかるけど、自分の手や足を動かして「動きにあった表現＝動詞」を身につけていく。見えないけれど「している」ことば。聞こえないけれどそこに「ある」ことば。こんなことばにたくさん出会えるといいなあと思います。

「もうすぐ暖かくなるので、子どもと一緒に散歩できるのが楽しみです」とお話ししてくれたお母さんがいます。散歩、いいですね！「歩くこと」が目的。車で「運ばれる」のではなく、自分の足でえっちらおっちら。途中の景色や自然を五感で楽しみながら歩くこと。散歩の魅力ですね！

春に向けてちょっとゆっくり、時間を気にせず、「面倒なこと」に挑戦してはいかがでしょうか？



「2月ファミリーセミナー」開催

2月18日(土)ファミリーセミナーを開催しました。今回は「先輩のお母さんのお話」として、立花さんをお招きしました。現在小学5年生になるお子さんと歩んできた道のり。迷いや不安、お医者さんとの相談や家族との支え合いを通して、ひとつひとつ、音を見つけ、ことばをあわせてきた初めての子育て。



「耳が聞こえなくてごめんねと、我が子に謝った」
「自分が子どもにどう育ててほしいか！を大事にした」
「悩みは尽きない。でも、子どもの成長は喜びです」
「この子を育てたからこそ、発見したことがたくさんあります」

立花さんからの話を聞きながら、参加したみなさんそれぞれが「今の我が子」「これからの子育て」「一緒に成長する子ども」を重ね合わせました。胸を詰まらせたり、涙をこぼしたりしながら「今日からの自分」にエネルギーを注いでいたように思います。

「立花さんのように強くなれるかどうか…」という感想に、

「私も最初からこんなに考えたり決意したり、強かったわけじゃない。子どもと一緒にひとつひとつ、乗り越えてきた結果、今、『少し強く』見えるのかもしれません」

と、ニッコリされました。優しくあたたかい素敵な笑顔です。

「先輩のお母さん」の素敵な笑顔に、明日への勇気をもらう貴重な時間となりました。



ご意見やご要望をお寄せください。

今年度も計8回のファミリーセミナーを企画し、のべ83名の方にご参加いただきました。ありがとうございました。お母さん、お父さん、おじいさん、おばあさん。赤ちゃんを見守る方々の思いを強く感じました。

今後もファミリーセミナーを通して、多くの皆さんと学び合い、つながり合っていけたらと願っています。

「こんなことを知りたい」「こんな内容はどうか」等ご意見やご要望を難聴児支援センターまでお聞かせください。



学校訪問より「きこえやすい教室をみんなで考えよう！」

きこえにくいお子さんへの支援として、在籍する小学校の訪問もしています。教室と一緒に学んでいる友だちがつけている「補聴器」や「人工内耳」について、

「きこえにくいってどういうことだろう？」

「みんなでできることってなんだろう？」

を、みんなで考える手助けになればと、「音やきこえ」について授業をさせていただいています。

小学校低学年むけには、「身の周りの音の大きさ」を計ってみたり、「補聴器の体験」をしたりしました。

小学校高学年むけには、「音が伝わる仕組み」を学んだり、学校生活での「きこえにくい場面」について話し合ったりすることができました。

どの教室でも、「きくこと・伝えること」に真剣に向き合い、「自分のこと・友だちのこと」として意見を出し合う姿が、とてもうれしかったです。

そして最後に「きこえやすい教室をみんなでつくろうよ！」と、積極的に話し合う子どもたちにたくさん出会うことができました。ありがとうございました。（以下、授業後に寄せられた感想の一部をご紹介します）



- ・音にはいろいろな大きさがあることがわかった。
- ・どんなに「シーン」としても音があることが分かった。きっと雨の音や風の音だと思う。
- ・はなれると音が小さくなるので、ちかくでお話するのがわかると思う。
- ・近くに寄りすぎるときつとうるさいと思う。だから、「〇〇ちゃんがどうきこえているか」を考えていけるといいと思う。
- ・補聴器で音を聞いてみたら、いろいろな音がまざってききづらかった。すごく集中がいるなあとと思った。
- ・聞こえるってぼくにとってはふつうだけど、本当はすごいことなんだな～と思いました。
- ・補聴器は便利なものだけど、周りが静かにしないと意味がないから、これからは雑音や話し声を減らしたいと思った。
- ・わたしもガヤガヤと聞こえないときがあったら「もうやだ！」と思ってしまう。
- ・声がきこえないのはすごく困るし、ゴニョゴニョ言っていると聞こえる耳でも聞こえないから、しっかりとしゃべるようにしたい。
- ・自分の耳や友だちの耳の大切さがよくわかった。他の人の声や話をちゃんと聞き取らなきゃと思いました。これからも耳を大切にしたいです。



「つながり」～新スク施設訪問をしています～

新生児スクリーニング検査を行っている地域の産科・産院等にご挨拶に伺っています。1000人に1～2人かもしれないと言われる難聴のお子さんですが、それぞれの場での様子をお聞きしながら、ご家族の安心と早期支援の橋渡しができたらと思います。お伺いして、実際にお話をさせていただく中で、

- ・検査を受けるときのご家族の心配や結果の説明について
- ・二次スクリーニング機関との連携について
- ・「フォローアップの同意書」の扱いについて
- ・出生数の推移や今後について

など、あらためて「連携」の大切さを感じています。

事前にご連絡をしてから、ご挨拶させていただいています。

お忙しい中と思いますが、ご協力をよろしくお願いいたします。



伊那市：菜の花マタニティクリニックさま



上田市：角田産婦人科内科医院さま

みみよい情報

◇「ものまねおしゃべり人形」



「あ～」と声をかけると、羽をパタパタさせながら「ア～」とまねっこ。「おはよう」と言うと「オハヨ～」と返してくれるおもちゃ。いろいろシリーズもでています。声を楽しみ始めたお子さんや、ことばを覚え始めたお子さんが、盛んに声をかけて遊べるおもちゃです。

難聴児支援センターの親子相談室にも置いてありますので、また、声をかけにお立ち寄りください。（愛称は『ペンちゃん』です！）

長野県難聴児支援センター

TEL:0263-34-6588

FAX:0263-34-6589

Mail:mimi@shinshu-u.ac.jp

住所：松本市旭 2-11-30 松本旭町庁舎 2 階

支援療育員：丸山秀樹

※ご相談、お問い合わせ等
お気軽にご連絡ください

